

(倫理様式 2-2-1)

回復期リハビリテーション病棟における退院時 ADL を予測するモデルの開発と検証

1. 研究の対象

2013年4月以降に当院回復期リハビリテーション病棟に入院し、2024年3月までに退院した初発の脳卒中片麻痺患者全症例

2. 研究目的・方法

回復期リハビリテーション病棟では、患者の効率的なADL（日常生活動作）能力改善が求められています。患者の効率的なADL能力向上には、入院時のデータからの確に入院期間や退院時のADL能力の予後予測を行うことが重要であると思われます。先行研究において、退院時のADLの臨床予測モデル(CPM)はいくつも開発されていますが、各施設で人員数や設備、リハ提供量などが異なっており、報告されているCPMを実運用するにはいくつかの障壁があります。

当院リハビリテーション部では、ADLがどれだけ自立しているかを数値化する評価法であるFunctional Independence Measure (FIM)を用いてADLを評価しています。今回、退院時ADLのCPMを開発し、どれだけ正確性が担保されているか時間的検証を行います。この開発と検証により、適正な入院期間を予測、提示するための一助となることを目指していきます。

美原記念病院リハビリテーション部では、入院時と退院時に加え、週に1回リハビリテーション担当者が身体機能評価や生活状況の評価を行っています。今回の調査には、このデータに加え、年齢、発症から回復期リハビリテーション病棟入棟までの日数、回復期在棟日数、入院基本料、疾患別リハビリテーション料を用います。

これらの研究は2025年2月～2027年3月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、身体機能の情報、生活状況の情報 等

※個人が特定される情報は用いません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(倫理様式 2-2-1)

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

研究責任者 石森卓矢

住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366

T E L : 0270-27-8813 F A X : 0270-24-3359

-----以上